

地 域 再 生 計 画

1. 地域再生計画の名称

紀中・紀南沿岸地域の産業を支える安全で快適な港づくり計画

2. 地域再生計画の作成主体の名称

和歌山県

3. 地域再生計画の区域

田辺市、新宮市並びに和歌山県有田郡湯浅町及び広川町、日高郡由良町、日高町及び印南町、西牟婁郡白浜町及びすさみ町、東牟婁郡串本町及び那智勝浦町の一部（湯浅広港、由良港、文里港、日置港、袋港、大島港、古座港、浦神港、宇久井港、勝浦港及び新宮港並びに印南漁港、周参見漁港及び三輪崎漁港）

4. 地域再生計画の目標

有田郡湯浅町・広川町、日高郡由良町・日高町・印南町、田辺市、西牟婁郡白浜町・すさみ町、東牟婁郡串本町・那智勝浦町及び新宮市は、和歌山県の紀中・紀南地域に位置し、沿岸地域は豪壮優美なリアス式海岸を形成し、豊かな自然が数多く残る地域で、吉野熊野国立公園（昭和11年）及び県立自然公園に指定されている。また、平成17年には、「串本沿岸海域」が世界最北の大サンゴ群生地としてラムサール条約第9回締約国会議において、ラムサール条約湿地に登録された。

背後の山間地域について、平成16年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産登録されるなど、今後、観光地としての活躍が期待されている。

更に、沿岸各地域において、黒潮本流と変化に富んだ熊野灘等の海岸線がもたらす豊かな水産資源を背景に、釣漁、網漁、採貝などの沿岸漁業等の水産業が基幹産業の一つとして営まれている。

しかし、現在、紀中・紀南の沿岸各地域には、プレジャーボート等の放置艇が約1,800隻あり、無秩序係留・利用者によるゴミの投棄・放置艇の沈没船化による水域環境の悪化、景観の阻害等の様々な問題を引き起こしており、放置艇対策が共通の課題となっている。

このため、紀中・紀南地域の港湾及び漁港を含む沿岸各地域において、平成22年度に、放置艇対策のソフト施策として、法令及び条例に基づく規制区域を指定し、放置艇の指導・撤去等の規制強化を実施し、併せてハード施策として、既存施設を活用した放置艇の収容施設整備を実施することとしている。

湯浅広港（湯浅町・広川町）、由良港（由良町・日高町）、文里港（田辺市）、日置港

(白浜町)、袋港・大島港・古座港(串本町)、浦神港・宇久井港・勝浦港(那智勝浦町)、新宮港(新宮市)【地方港湾11港】は古くから地元の漁船に広く利用され、地域生活に密着した重要な役割を果たしており、現在も約700隻の漁船が利用している。しかし、紀中・紀南沿岸地域の放置艇(約1,800隻)の内の約4割に当たる約750隻がこれらの港湾区域内に不法係留されており、放置艇による荷揚げ作業への支障や航行障害等の港湾・漁業活動に弊害を引き起こしている。

漁業者にとっては、放置艇が無秩序係留していることによる航行・係留作業の効率悪化及び利用者等により投棄されたゴミの回収作業、更には荒天時における漁船等の係留場所への不法係留による避難場所不足や放置艇の流出による漁船への接触被害等が負担となっている。

このため、本計画では既存の利用水準が低い物揚場や護岸等を有効活用することを基本方針とし、低コストによる放置艇収容施設を整備することで、放置艇を適正に収容し、快適な水域環境や周辺景観の保全に努め、漁業者をはじめ港湾利用者が安全で活動しやすい港づくり、並びに釣りやスキューバダイビング、観光船クルーズ等の海洋性レクリエーションの振興を行う。

一方、近年、紀中・紀南の沿岸各地域の水産業においては、黒潮の流れや沿岸海域の環境の変化による水産資源の減少に伴う漁獲量の低迷や漁業者の高齢化・後継者不足及び輸入水産物増加に伴う水産物価格の下落など、多くの共通課題を抱えている。

水産業振興施策として、各市町村単位では、観光産業と連携し、地域の漁港で水揚げされた新鮮な魚介類の即売会や地域の特産品の販売等のイベントを実施し、地域全体のPR・活性化の推進、また、『すさみのケンケンかつお』をはじめとする、地元産ブランドの確立・知名度アップによる水産物価格の安定化等に取り組んでいる。

和歌山県においては、漁業者の減少(H15→H20減少率:和歌山県16.0%、全国6.9%)は深刻な問題で、後継者不足による水産業の衰退が危惧されている。その対策として、漁業就業希望者に対し、県内の漁業についての求人情報を提供するとともに、就業に必要な知識・技術の習得を目的とした研修費用を補助する等の漁業への担い手支援等を実施している。

併せて、本計画により、紀中・紀南地域の中核漁港である印南漁港(印南町)、周参見漁港(すさみ町)、三輪崎漁港(新宮市)において、高齢化・後継者不足の課題を抱える漁業者の負担を軽減し、若者が漁業に就業したくなるような漁港の労働環境整備に取り組む。

印南漁港は、印南4漁港の中心港であり、船釣りや刺し網による体験漁業を実施し、観光産業との連携強化にも取り組んでいる。しかし、荒天時には、港外付近の波浪が著しく、港内に避難場所が少ないため、町登録漁船のうち約4割の漁船が田辺湾等へ年間約2~3週間程度の避難を余儀なくされ、危険な避難作業や避難時の燃料費負担及び避難による操業度の低下が漁業者の大きな負担となっている。また、漁港道路は

印南町が地域再生の一環として魚介類の加工工場や販売所等の誘致を進めている漁港関連施設用地へのアクセス道路になっているが、国道42号交差点付近の幅員（3.5m程度）が狭く、車の対向が困難であり、接触事故等の危険性があるため、漁業者だけでなく、地域住民からも道路整備の強い要望が出ている。

周参見漁港は、すさみ町内6漁港の中心港であり、町内の水揚げされた魚の多くが周参見漁港に集められ、中でもブランド化した『すさみのケンケンかつお』は、京阪神地方をはじめ東京、名古屋等の都市部へと広く出荷されている。また、町登録漁船の荒天時の避難港として利用されているが、荒天時に安全に係留できる避難場所が不足しているため、陸揚げや約50km離れた田辺湾等へ避難せざるを得ない状況である。

このため、本計画により、印南漁港においては、漁港道路整備により、漁業者や地域住民が、漁港及び印南町の漁港関連施設用地へ安全にアクセスできる道路を確保するとともに、施設用地への企業立地を促進する。併せて、印南・周参見両漁港において、防波堤や突堤を整備し、荒天時にも町登録漁船が安全に係留できる避難場所を確保することで、漁業者の負担軽減を図る。

三輪崎漁港は、新宮市の沿岸漁業の中心港であり、吉野熊野国立公園特別地域に指定され暖地性海岸植物が多種群生する鈴島・孔島の島礁が漁港内に存在する自然環境に恵まれた漁港で、漁港周辺には新宮市内唯一の地磯があり、地域住民が磯遊びに訪れている。また、平成21年3月に漁港内交流施設として、市内初の足湯施設がオープンし、地域住民や観光客の利用促進が期待されている。

しかし、近年の漁業資源の枯渇、磯やけ等により、沿岸漁業の水揚げ量が伸び悩んでおり、漁業収入が減少しているため、漁獲量の安定化及び生産コストの縮減を図るため『つくり育てる漁業』を目指した畜養水面の確保及び養殖に対応した漁港整備が課題である。

このため、三輪崎漁港においては、本計画により、フグ等の活魚の畜養及びヒオウギ貝等の中間育成に必要な施設として、生け簀等の離接岸や筏等養殖施設の揚げ降ろしのための岸壁・船揚場等や畜養に使用する漁具の保管修理施設用地及び輸送道路、並びに必要水深が不足している泊地を整備し、漁業者の安全な労働環境と安定した漁業収入の確保を図る。

水産業振興施策として、各市町村及び和歌山県の関連事業と併せて、紀中・紀南地域の中核漁港3港において、高齢化・後継者不足の課題を抱える漁業者の負担を軽減し、若者が漁業に就業したくなるような漁港の労働環境の整備並びに地域住民や観光客が訪れやすい環境を整備することにより、地域全体の水産業振興を行う。

本計画により、紀中・紀南沿岸地域の港湾及び漁港が一体となり、地域の基幹産業である水産業、観光産業の振興を行い、そして最終的には沿岸地域全体の活性化を図る。

(目標1) 放置艇の収容(地方港湾11港)

- ・ 紀中・紀南の地方港湾11港の周辺に不法係留されている放置艇約750隻を計画期間内に収容する。

(目標2) 漁業就業者の減少改善(印南町、すさみ町、新宮市)

- ・ 漁業の担い手支援等のソフト施策と併せて若者が漁業へ就業したくなるような漁港整備を実施し、印南町、すさみ町、新宮市の漁業就業者数の減少を鈍化させる。

H26年度以降：漁業就業者の減少数(11人/年)の改善

(参考) 印南町、すさみ町、新宮市の漁業就業者数の推移実績

11. 4人/年 減少(H15:338人→H20:281人 Δ57人)

5. 目標を達成するために行う事業

5-1. 全体の概要

各港湾においては、放置艇問題を解消することにより快適な水域環境や周辺景観の保全に努め、漁業者をはじめ港湾利用者が安全で活動しやすい港づくり、並びに海洋性レクリエーションの振興を行う。そのため、関連事業である放置艇の規制強化と併せて、本計画により既存の利用水準が低い物揚場や護岸等を有効活用することを基本方針とし、低コストにより小型船係留施設を整備し、放置艇を適正に収容するとともに、海洋性レクリエーション利用者等の係留場所を確保する。

(要収容隻数：湯浅広港226隻、由良港139隻、文里港212隻、日置港30隻、袋港25隻、大島港10隻、古座港50隻、浦神港41隻、勝浦港20隻、宇久井港25隻、新宮港15隻)

各漁港においては、水産業振興のため、関連事業の和歌山県による漁業担い手支援並びに各市町村による漁港のPRイベント等のソフト施策と併せて、本計画により高齢化・後継者不足の課題を抱える漁業者の負担を軽減し、若者が漁業に就業したくなるような漁港の労働環境の整備を行う。印南・周参見漁港においては、荒天時に漁船が安全に係留できる避難場所を確保するため、突堤及び防波堤の整備、並びに漁港への安全なアクセス道路を確保するため、道路整備を行う。三輪崎漁港においては、「つくり育てる漁業」を推進するため、フグ等の活魚の畜養及びヒオウギ貝等の中間育成に必要な施設として、岸壁・船揚場・漁港施設用地・道路及び泊地の整備を行う。

5-2. 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

港整備交付金を活用する事業

「施設の種類の事業主体」

- ・ 港湾施設(湯浅広港・由良港・文里港・日置港・袋港・大島港・古座港・浦神港・

宇久井港・勝浦港・新宮港【地方港湾11港】：和歌山県

・漁港施設（印南漁港・周参見漁港・三輪崎漁港【第2種漁港3港】）：和歌山県

「整備量」

・港湾施設…係留施設、外郭施設、水域施設

・漁港施設…係留施設、外郭施設、水域施設、輸送施設、漁港施設用地

「事業期間」

・港湾施設…平成22年度～平成26年度

・漁港施設…平成22年度～平成26年度

「港整備交付金の事業費」

総事業費 1,520,000 千円

港湾施設 1,050,000 千円（うち交付金 420,000千円）

漁港施設 470,000 千円（うち交付金 235,000千円）

5-3. その他の事業

[関連事業（港湾）]

○ 放置艇ソフト対策

- ・和歌山県プレジャーボートの係留保管の適正化に関する条例制定（平成20年）
- ・紀中・紀南地域の港湾、漁港、海岸等の公共水域において、港湾法等による放置等禁止区域、条例による重点調整区域を指定し、放置艇の移動指導・強制撤去等の規制を実施する。（平成22年5月予定）

○ 紀州湯浅の鯖と鰯祭り（湯浅町）

- ・湯浅湾で採れた鰯、鯖のほか新鮮な魚介類の即売会や、野菜、湯浅醤油等の特産品の販売を通じ、湯浅町全体のPR、活性化を図ることを目的に毎年開催している。

○ 由良海釣り公園（由良町）

- ・魚種も豊富で、家族連れ、初心者向けとして安心して釣りが楽しめる公園として、年間を通して運営されている。

○ ホエールウッチング（那智勝浦町：港湾、漁港）

- ・太平洋を回遊するクジラは5月から7月にかけて熊野灘に接近しており、観光船から観覧するクルーズが催される。

○ 新宮港港湾環境整備事業（和歌山県）

- ・三輪崎地区において、緑地整備による地域住民のふれあい・交流の場の提供、及び大規模地震時における救援物資基地として機能する場の整備を実施する。

[関連事業（漁港）]

○ 漁業の担い手支援（和歌山県）

- ・ 和歌山県では、漁業者の後継者不足問題に対応するため、漁業就業者確保育成センターを設置し、漁業に関する求人情報を収集し、県ホームページ等により情報提供している。また、漁業の担い手育成促進のため、漁協が実施する就業への必要な知識・技術の習得を目的とした研修費用等を補助している。

○ 印南潮の香体験（印南町）

- ・ 船釣りをはじめ、刺し網による体験漁業を実施し、観光産業との連携を図る。

○ まぐろ祭り（那智勝浦町）

- ・ 毎年、県内外からたくさん訪れる観光客に対し、当日水揚げされた新鮮なマグロを即売したり、マグロ汁を無料でふるまい、那智勝浦町の水産、観光振興を行っている。

○ 潮風まつり（新宮市）

- ・ 毎年、三輪崎漁港で採れた魚介類を加工し販売するほか、孔島、鈴島周辺の磯場で貝拾いイベントを実施している。

○ 三輪崎漁港交流施設：足湯施設（新宮市）

- ・ 三輪崎漁港内から湧き出ている温泉を使った市内初の足湯の他、男女トイレ、海水浴客用の更衣室、シャワー施設が設置された交流施設を平成21年3月にオープンした。

6. 計画期間

平成22年度から平成26年度

7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項

計画終了後に、4に示す数値目標に照らし、和歌山県が状況を調査、評価し、公表する。

8. 地域再生計画の実施に関し、当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし